

# やませみ 通信



(やませみは興津川の清流のシンボルです)

## 第2回 鮎友釣り教室!! さあ、大きい鮎が釣れるかな



鮎の友釣りは、鮎の習性を利用した特殊な釣り方です。  
天候も良く、釣って、食べて、遊んで、興津川を満喫しました。

NO. 30

平成 20 年 3 月

- 6月 ホタル観察会
- 7月 アユ友釣り教室
- 8月 川のセミナー
- 9月 クリーン作戦中止
- 11月 橋造りと山芋掘り

### 目 次

- 1 第2回「鮎友釣り教室と川遊び」
- 3 第12回 やませみ川のセミナー
- 5 残念！興津川クリーン作戦の中止報告 2007/ 9/ 8
- 7 市民の森づくり  
～橋造りと山芋掘り～
- 9 第2回 蛍を見る会
- 11 「清流のうた」合唱版、ブラスバンド版編曲完成

再生紙を使用しています。

## 第2回「鮎友釣り教室と川遊び」

興津川保全市民会議事業委員長 望月 誠一郎

### 「鮎友釣り教室と川遊び」は最高の天気

昨年度から始めた「鮎釣り教室と川遊び」は好評で、多くの方から応募があり、今年は、親子30人の一般参加がありました。

開催日は、快晴になった7月28日（土）に興津川の中流、但沼の河原で開催しました。暑い日差しの中、さらさらと流れる清流の興津川に足をさらしての鮎釣りはとても気持ちの良いものでした。

### 鮎の習性と友釣りの講義

鮎釣りは、オトリ鮎を使って釣る特殊な釣り方です。最初に鮎の一年間を通じての居場所や習性、釣り方について講義をしました。

そして、指導に当たる講師の紹介とチーム分けを行い、川に向かいました。

#### 鮎の習性と鮎釣りの講義



#### 鮎釣りの構えから指導



### 鮎釣り名人の指導により鮎釣りの開始

今回の講師は、興津川漁業協同組合員と常日頃から鮎釣りをしている名人達です。各チームに分かれ、講師の指導によりオトリ鮎をつけて、親子で楽しく鮎の友釣りを楽しみました。

#### お父さんも頑張ってる釣っています



#### 一匹でも釣ると、鮎が引く感触が忘れられなくなる



### お昼は楽しく鮎の塩焼きでお弁当

午前中の鮎釣りが終わった後は、楽しいお昼のお弁当の時間です。この日のメニューの楽しみは、なんといっても興津川保全市民会議のスタッフが事前に準備をしておいてくれた、「天然の鮎の塩焼き」です。興津川の鮎を串刺しにして塩をつけ、炭火で焼いて食べるのです。焼きたての天然の鮎の塩焼きを参加者の皆さんがおいしそうに食べていました。

また、お昼の楽しみとしてスイカ割りを行いました。川の中で冷やしておいたスイカをおなかいっぱい食べ、皆大満足でした。



天然のアユを串に刺し塩焼きすると良い香りが…



天然の鮎の塩焼きは身も柔らかくおいしいね



### 午後は川の中に入って川遊び

午後は、自由行動です。午後ももっと鮎釣りをしたい人は講師と一緒に鮎釣りをしました。

川遊びをしたい人は、川の中に入り泳いだり、水中メガネで川の中を覗いて、泳いでいる魚の観察をしたりしました。その他、浅瀬にいる小魚をタオルなどを使って追い込みながらすくい取る遊びなども教えてもらい、家族それぞれで清流の興津川を楽しみました。



### 天然の鮎は色鮮やかで格好がいい

釣ったばかりの天然の鮎は、胸の黄色が鮮やかにはっきりと見えますし、全体に光っています。そして、鮎に触ってみると、つるつるしていてとても気持ちよく感じます。

このように興津川保全市民会議の鮎友釣り教室は、今年も興津川の清流に住む天然の鮎に触れ、味わい、学ぶことのできる楽しいセミナーとなりました。



きれいな流れの中での水遊びは気持ちいい!!



泳いでいる鮎やハヤの姿が見えたよ

## 第12回 やませみ 川のセミナー

### 概要

2007年8月25日(土)、興津川の中流の承元寺八幡橋付近と上流の黒川付近、及び青少年自然の家とその周辺で、興津川保全市民会議主催の第12回川のセミナー「興津川の鮎とともにだち調べよう！」を開催しました。

今回は、昨年に引き続き、神奈川にある東海大学の北野ゼミ生が今年は倍の10人が川の虫や魚の採取や分類などをサポートしていただきました。

### ●オリエンテーション

今日のセミナーの目的、スケジュールやスタッフ紹介、安全注意を清水区役所で行いました。今年の子どもたちは、小学校4年生と5年生が中心で、人数が多かったので、バス2台に分乗しました。バスの中では、「清流の歌」を聞きながら調査地点に向かいました。



### 【午前のセミナー】

昨年と同様に東海大学教授の永井彰先生と北野先生、大貫先生の指導のもと、「川の魚と虫の観察」を行いました。観察場所は興津川の中流の承元寺八幡橋付近と上流のやませみの湯付近で川の虫や魚を採取したり、観察したりしました。今年、主な生物採取では中流でヒラタカゲロウ、カワゲラ、ヒゲナガカワトビケラ、トビケラなどのほかに、シマヨシノボリ、シマドジョウ、アブラハヤ、カワムツ、鮎上流では中流の川の虫の他にヘビトンボ、サワガニ、カジカカエルなどのほかに、アユ、アマゴ、タカハヤ、

静岡県建築士会清水支部 木村精治 小川清貴

オオヨシノボリ、カワムツを観察しました。

前日の夜に雨が降ったにもかかわらず昨年より水量が少なく、石や砂が堆積する部分もありました。以前と比べだいぶ河川環境が変化してきているとともに、水質も悪くなってきているようです。

### ●観察(承元寺八幡橋付近)

昨晚、雨が降った割には水量が少なく、川の中瀬が年々拡大しています。



水温25℃  
虫取り、魚  
とりに苦戦  
していました。



### ●観察(黒川やませみの湯付近)

黒川の水温は23℃で、承元寺と比べ温度が2度低かったです。ここでは、子どもがサワガニを数多く獲りました。今年、水量が少なく、藻が石に多く見られました。

### ◆流しそーめん

今年、昨年の反省を踏まえ多めのそーめんを用意しました。途中から、みかん、ブドウなどが流れてきて、必死で取ろうとするがなかなか箸では取りにくかったです。学生が数が多かったのか、そーめんはあっという間に終わり。味はいつもながら格別でした。



流しそーめんは、いつも人気が高く、すぐになくなってしまふ



## 【午後のセミナー】

### ◆鮎の一生と好ましい河川環境の話

昼食後、「鮎の一生と好ましい生息環境」の話、後藤先生から図などを使って分かりやすく説明していただきました。



また、階段状の砂防堰堤に行き、魚の捕り方を学ぶとともに、安全確認、活動範囲の注意を聞いた後、鮎とりや水遊びを行いました。とても暑い日だったので、水遊びは好評でした。



## 観察のまとめ

セミナーのまとめとして永井先生と北野先生、大貫先生より、中流と上流に棲息する生物の違いのお話を聞くとともに、魚のエラなどを顕微鏡を使い詳しく調べました。

さらに、採取した川の虫の特徴のほか、川の虫は地域によって珍味や薬、民芸品などになっていることもわかりました。

「ザザムシ」といわれる珍味をおそろおそろ味わった子供もいました。

## 顕微鏡での観察の様子



永井先生、北野先生、後藤先生、大貫先生わかりやすいお話ありがとうございました。

また、北野ゼミ生のみなさん協力ありがとうございました。

当会の成瀬委員より、受講者に参加証が手渡されました。



# 残念！興津川クリーン作戦の中止報告 2007/9/8

興津川保全市民会議 事務局

## 初めての中止となり、残念！

毎年の恒例行事で、参加者数1,000人を超える大イベントである「興津川クリーン作戦」。今年も平成19年9月8日（土）に実施予定でしたが、残念ながら中止となりました。

今回は、中止の判断に至るまでの経緯と興津川の様子について、担当事務局より以下のとおり報告します。

## 台風9号上陸！最大水位178cm

9月7日午前0時ごろ、台風9号は静岡県に上陸。「興津川クリーン作戦」の会場となる興津川にも多量の雨をもたらしました。和田島の観測計（静岡県が設置）によると、台風9号の影響と思われる降雨量は、9月5日から9月7日までの累計179mm、興津川の最大水位は178cm

### ■クリーン作戦会場付近の9月7日の写真

興津川河口付近、増水して川幅いっぱいになっていました



雨乞い興津川漁協事務所裏側は川幅全体に増水していた



となりました。

実施日前日である9月7日（金）午前中、参加者の方々から「クリーン作戦」実施の可否に関する多数の問い合わせがありました。参加者の方々も台風の影響を心配していたようです。

## 前日の現地確認、水没している会場

同日午後、事務局5名と塚口事業委員（事業委員長代理）の計6名で現地確認に向かいました。興津川河口会場から順を追って上流部に行きましたが、やはり水量、流れの速さともに通常の興津川とは全く異なる状態で、クリーン作戦会場となる河川敷が水没してしまっているところも数か所見られました。

## メイン会場にて中止の判断をする

メイン会場となる土キャンプ場での確認後、事務局長である清流の都創造課長、塚口事業委員、担当者の3名で話し合いをしました。水量も増し、水流も激しい状態で河川敷のボランティア清掃を実施することは、参加者の安全の確保が極めて困難であるとの理由から中止の判断をしました。

## 9月8日再度確認 - 水は引いていた

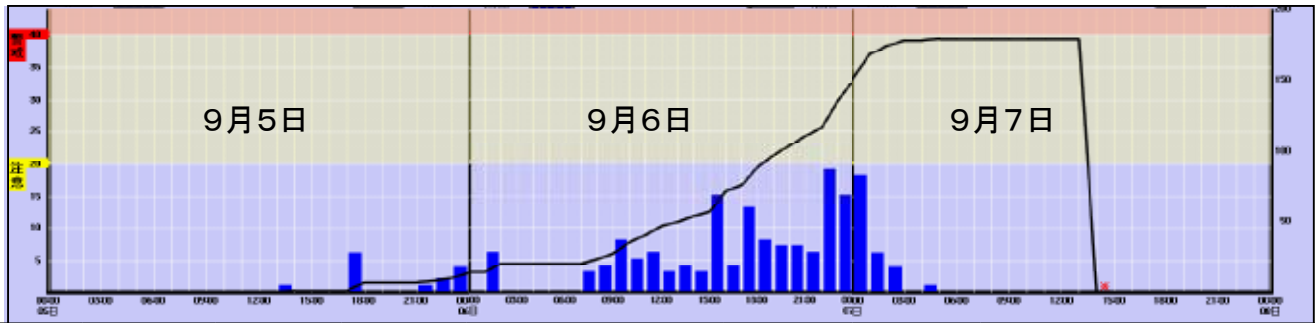
9月8日、再度現地確認を行いました。そこには流量、水流ともに穏やかな、普段の興津川がありました。地元の話によれば、興津川は急流であるため水量が引くのも早いとのことでしたが、実際に自分の目で見ることで、こ

土のメイン会場付近の河原も全体が水で覆われていた





## ■和田島の雨量グラフ・水位表



時間	0:00 ~ 8:00	8:00 ~ 16:00	16:00 ~ 24:00	0:00 ~ 8:00	8:00 ~ 16:00	16:00 ~ 24:00	0:00 ~ 8:00	8:00 ~ 16:00	16:00 ~ 24:00	(3日)
雨量 (mm)	0	1	9	10	36	79	44	0	0	累計 179
水位 (cm)	3	4	6	10	58	152	178	94	68	最大水位 178

出典：SIPOS-RADER（静岡県土木総合防災情報） <http://sipos.shizuoka2.jp>

これまで見事に水が引いてしまうものかと逆に感心してしまいました。

### 難しい中止の判断

今回はやむなく中止という判断をいたしましたが、結果的にはこれでよかったと考えています。自然を対象とした活動を行う以上、計画をどれだけ詰めようが天候に左右されてしまうことはやむをえないですし、状況が悪い中実施してしまえば即大事故につながる危険性をはらんでいるということを改めて実感することのできた良い機会でした。

### 今後の備え

また、平成7年にクリーン作戦を開始して以来、今まで中止という判断をしたことがないと

のことで、その対応方法についても検討する契機となりました。

来年度は、今回の経験を生かし、その募集の段階から「中止になるかもしれない」という考えを持ちつつ、各段階での準備に取り掛かろうと思います。

### クリーン作戦に参加申し込みの皆様へ

最後になりましたが、興津川保全市民会議の会員、事業者、地元の自治会他今年度の興津川クリーン作戦に参加予定をいただいた皆様、また、実施に至るまでの準備段階においてご協力いただいた皆様に対して、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

## ■台風通過後の9月8日の写真

(雨乞い) 川中の石も顔を出していた



(土会場) 台風が通り過ぎた後とは思えないほど水量が減少していた



# 市民の森づくり ～ 橋造りと山芋掘り ～

一般参加者 滝本 晶子

## いざ市民の森におけて出発！

西里から市民の森の入口までは、トラックの荷台に乗せてもらうのが毎回楽しみのひとつ。山仕事の道具や機材の間に座りこみ、いざ出発。

ガタゴトと登り坂も、顔にあたる冷たい風も心地よい。

トラックを降りると山登りの支度だ。子どもたちもヘルメットに皮手袋、腰からはナタをさげ、かっこうだけは一人前だ。

湿った山道に入ると、沢からあがってきたらしいサワガニがあちこちに。子どもは見つけるのが早い！結構急な登りである上に、雨上がりですべりやすいのだが、おかまいなしに何匹もつかまえながら歩いている。

## 山の沢を渡る橋の付け替え

途中、壊れかけた橋の付け替えを行ないました。橋づくりの現場では、山のおじさんたちが倒木や立木を使って、すいすいと橋を造りあげていく。

山の仕事は決して力ばかりが必要なのではない。工夫し、考え、頭を使っていく職人のワザ。

仕上げのくぎ打ちは、子どもたちも参加。おもちゃではない、本物のくぎや金づちを使って、本物の橋をつくるのだ。チビも真剣だ。「よし、うまいぞ！」なんて、おじさんたちにおだてられながら橋は完成した。（やったね！）

僕も釘打ちを手伝ったよ

長い間使われた橋も腐って危険になっています



ようやく木橋が完成し、安心して渡ることができるようになりました





## 展望台を目指してまた出発

やがて明るい山の斜面に出る。ここはこれまで皆で植林や下草刈りを頑張ってきた所だ。

夏に汗だくになってササを払ったのに、もうこんなに生えている！

植林した木はまだ細く、背も低い。枯れちゃったの？と心配になるが、大丈夫らしい。

木や森を育てていくには長い長い年月が必要で、そしてそれは、地味で根気のいる作業の連続だ。

やっと展望台に到着！小さいけれど、ここも木を使った手づくりのもの。

そこで皆で食べるお弁当の美味しいこと！景色も風も気持ちがいい。

## 山芋掘りに挑戦

お弁当の後は、山芋掘りにも挑戦！初めての

敷地内の木の根元に山芋を見つけ掘り出す



ことばかりだった。

森林は、まるで自然科学の先生のように。森に入れば、木があり草が生え、花が咲き、動物や鳥や虫がいて、土があり、沢には水が流れている。

子ども時代に自然の中で遊んだことは、五感で感じ覚えているもの。

そして今日のように、年の違う人たちとの出会いと出会いの中での学びも。

森づくりは人づくりにもつながっている。

ささやかであっても、継続していくことが、森にとっても子どもたちにとっても、大きな力になっていくのだと信じたい。

自然の中に身を置くことは、大人にとっても癒しとなり、明日を生きる力となる。(ちょっとムリして都合つけて、来たかいがあったでしょう？お父さん！)

深く、掘り出した山芋は長かった



展望台からは青空の中に雪をかぶった富士山が見える



## 第2回 蛍を見る会 自然の蛍に感激!!

興津川保全市民会議・市民の森づくり会員 滝田 和明

### 今年は蛍が見られるかな？

「去年蛍の鑑賞会をやったら、この辺にいっぱい飛んでいましたよ」

「えー、そうなんですか！今年も鑑賞会やります？いつ頃ですか？子供を連れて来て絶対見たいなあ・・・」

こんな会話をしたのは、市民の森に向かう車の中であったでしょうか。

### 初めて蛍を見たのはいつだったかな

私が生まれ育ったのは、今のように区画整理を終え宅地化が進むずっと前の清水区中之郷です。当時もすぐそばを静鉄電車が走り、草薙駅や旧東海道にも近かったけれど、周りには茶畑や植木畑が広がり、夜になれば街灯もなく真っ暗になる、そんな長閑な地域でした。昆虫や蛙はたくさん捕まえました。でも蛍を見たという経験が実はなかったのです。

初めて蛍の群舞を目の当たりにしたのは、就職して下田に転勤した今から二十数年前。稲梓（いなずさ）という山に囲まれた地区に上司が建てた小屋があり、誘いを受け酒の御馳走になったときです。酔い覚ましに近くの小川の畔へ行くと…。蛍の群舞でした。あまりの見事さに茫然自失。気が付くと満天の星空を見上げ蛍の光を歌っている自分がそこにいました。（冗談）

### 今年の蛍鑑賞会の日が来ました

おっと、今年の蛍鑑賞会のことを書かなければいけません。

梅雨空広がる6月の宵。冒頭の決意どおり、小五の息子と小三の娘を連れて定刻どおりにやませみの湯駐車場に集合です。どうやら雨の心配はなく、案内役の方々の話を聞き、でもまだ蛍のお出ましには少し早いということで、周辺で蛙を探しながら暫し時間を潰している頃・・・。

ビオトープの案内板。どのあたりで出るのかしら



夕闇迫る中、望月事業委員長のあいさつと参加者。去年は出たと言うけれども今年はどうかな？





## 蛍が出た！

ポッ。ポッ。出ました出ました。蛍です。鑑賞会に参加した方ばかりでなく、たまたま散策していて遭遇した人達からも歓声があがります。

「キレイだねー」、「ほら、あそこあそこ」  
光っては消える、蛍の光

蛍たちはそんな外野の声を知ってか知らずか、林の奥や手前、木々の高みや地面近くと神出鬼没に光っては、スーッと飛んでフッと消える。時々こちらに飛んできたと思うと滑らかに飛び去っていく。「幽玄」の世界がそこに広がっています。子供達は蛍を捕まえようと飛び回り、大人達はボーッと見惚れるばかり。



ホラ、そこに蛍がいるよ



今日はいっぱい蛍を見られて良かったね



## 別の場所でも蛍が乱舞

興奮覚めやらぬまま次の観賞場所に移動です。今度は笑みの家近くの小川です。到着すると、そこは既に蛍の群舞でした。ワルツ、タンゴ、ロンド。いえいえ、蛍の群舞に音楽は必要ありません。水の流れる音と蛍の光。こちらは「華麗」な世界でしょうか。ここでは人間の存在は邪魔者以外の何物でもありません。でも蛍たちは、ちんにゆうしや闖入者達を排除するでもなく、歓迎するでもなく、ただ悠然と飛び回るだけです。

その後私達は更に2箇所を巡り散会しました。

## 帽子と蛍



## こんな経験を子どもたちに

この鑑賞会で子どもたちが何を得たのか、私は知りません。でも良いのです。これからもこんな体験の機会をたくさん提供できれば、と思っています。

自然は偉大です。自然は仲良くしようとするものを拒みません。でも敵対するものにはいつか必ず手痛いしっぺ返しをするでしょう。人は自然と仲良くするために何をしなければいけないのか。何をしたらいけないのか。何を変えなければいけないのか。何も変える必要がないのか。こんな小さな体験からも様々な想念が胸に去来することがあります。

♪ホーホー ほたるこい  
こっちの水は あまいぞー  
あっちの水は からいぞー  
ホーホー ほたるこい♪

# 「清流のうた」合唱版、フラスバンド版編曲完成

興津川保全市民会議では「清流のうた」を作成し、これまで声楽版、BGM版などを作成してきました。

## 「合唱版」の作成と収録

今回は、作曲者の浜田先生の編曲による「合唱版」の楽譜が完成しました。そこで、12月のはじめに、静岡音楽館AOIにて収録を行いました。

## 「フラスバンド版」の作成

また、以前から作成をお願いしていた「フラスバンド版」の編曲も完成しました。

今後、演奏バンドとの調整をして収録を行なって行きたいと考えています。

## 「清流の歌」の普及活動に協力を

このように「清流の歌」はいろいろなバージョンで歌われ、演奏されることが可能になってきました。

ぜひ、会員の皆さんをはじめ多くの市民に歌われ親しまれるよう普及活動にご協力ください。

合唱版収録の様子（静岡音楽館AOIにて）



## 「清流のうた」

作詞：石川 忠 作曲：浜田洋通

みどり豊かな 山々の  
森や林に 生まれ  
川よ 川よ 清流よ  
いつまでも自然の たたずまい  
ふるさとの美しい ああ川よ

お茶とみかんの 香る風  
空を飛び交う 鳥の声  
川よ 川よ 清流よ  
水遊び 鮎釣り せせらぎの  
思い出がよみがえる ああ川よ

橋を幾つも くぐり抜け  
やがて駿河の 海に出る  
川よ 川よ 清流よ  
これからも変わらず いてほしい  
ふるさとの美しい ああ川よ



興津川保全市民会議の会員になり、「清流の都」づくりのため、一緒に活動してください。

法人、団体等会員 3,000 円 / 年  
個人会員 1,000 円 / 年

会員へは、「やませみ通信」他、年間を通じて各種イベント、企画の案内を送らせてもらいます。  
また、清流のうたのCDなども特別価格にて提供します。

発行 興津川保全市民会議  
編集 興津川保全市民会議 事業委員会  
編集レイアウト (株) 地域デザイン研究所 (望月)  
印刷  
発行日 平成 20 年 3 月

興津川保全市民会議事務局  
(静岡市清流の都創造課内)  
TEL. 054-221-1319  
FAX. 054-205-2666  
〒420-8602 静岡市葵区追手町 5-1

編集委員からひとこと・・・

今年度は、9月になっても、10月になっても暑い日が続き、地球の温暖化が進んでいると実感した年でした。地球温暖化防止のためにも、健全な森林保全に協力しましょう！